

2019年のITS世界会議の開催地が“シンガポール”に決定

2019年にアジア・太平洋地域（以下AP）で開催される第26回ITS世界会議の開催地が、このほどシンガポールに決定した。去る4月26日（日）に中国の南京で開催された「AP理事会」で内定し、5月11日（月）にオーストラリアのメルボルンで開催された「世界会議理事会」にて、正式に承認された。



世界会議理事会で説明するITS AP
事務局長の天野肇（右）
(ITS Japan 専務理事)

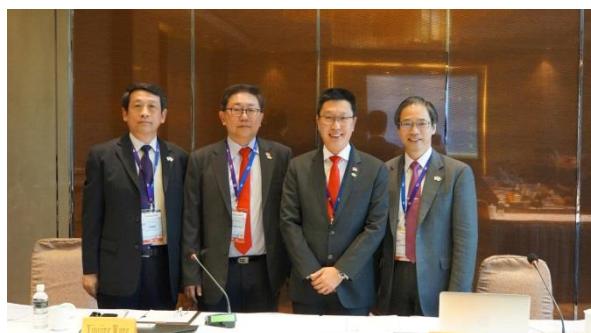


世界会議理事会での正式承認後に
挨拶するシンガポール陸上交通庁の
Dr. Chin Kian Keong

シンガポールでは、これまでに電子道路課金徴収システム・高速道路監視システム・青信号連動システムや道路状況提供システムなどITSを取り入れた先進的な都市交通を実現している。更に昨年、乗用車依存から公共交通へのシフトを狙う国家戦略「Smart Mobility 2030」を策定し、都市国家のモビリティーを再構築し、企業誘致・観光振興に資するため、最先端のITS技術の導入や、世界中の研究機関との連携を推進している。

今年陸上交通庁のCEOに就任したChew氏によると、シンガポールでは3月に自動運転の公道実験を開始し、またGNSSベースの次世代電子道路課金徴収システムを、2019年導入に向けて準備中とのこと。

産官学が総力を挙げてITSを活用した都市国家づくりに邁進するシンガポールに注目したい。



AP理事会にて、シンガポール代表と。
左から
Xiaojing Wang, ITS AP理事会議長（中国）
Mong Kee Sing, ITS シンガポール専務理事
Chew Men Leong, シンガポール陸上交通庁長官
天野肇, ITS AP事務局長